

【令和4年度職員自己評価】

◆前期

- ・今年度の自分自身の課題・目標について振り返り
- ・エピソード記録
- ・with コロナの中で…

分析

課題・目標は職員一人ひとり違うが、それぞれ工夫し、勉強し前向きに取り組んでいる。園内外の研修への参加も刺激になっているようだ。

エピソード記録では、「子どもはどのような思いでいたか」「自分の対応は適切だったか」「今後どのような支援をしたいか」と、細かく記録することで気づきも多かった。もっと子どもの年齢の特質などを踏まえた内容が書かれているとより良い記録になる。

感染症対策については従来通り粛々とやる以外なかった。動画配信やホームページをより活用し、保護者には園の様子を公開している。

◆後期

- ・今年度の教育・保育の振り返り
- ・自分自身の課題・目標について前期の振り返りからの後期の評価
- ・自分自身の来年度の課題・目標

分析

今回、「主体性を育む」「不適切な関わり」「with コロナ」3つの視点で教育保育の振り返りをした。大半の職員が、子ども一人一人の思いを大切に寄り添う保育を心掛けながらも、「主体性」とは何だろう？と、日々考えている。また、不適切な関わりについても、自分の言動を振り返る時、「今のは大丈夫だったかな？」と思い悩む毎日である。with コロナについては、大勢の子どもたちが集まる場所での感染症対策の大変さ、職員の健康管理の難しさを痛感した。

自分自身の課題・目標について、今年度は前期から引き続き前向きに取り組めた。その中で、担任間のコミュニケーションの大切さ、保育に対する情報の共有の大切さを感じている職員が多かった。話し合いの時間の確保は園の課題の一つでもある。個々の課題に取り組むことで園全体の課題をあぶりだし、その課題と向き合っていけるよう、自分自身の課題・目標を明確にしてほしい。

評価

昨年度に引き続き今年度も、コロナ対策で園外研修がオンライン等のものが多かった。アーカイブ配信等もあり、多くの職員が希望する研修を受講することができ、個々のやる気とスキルアップに繋がった。来年度も、職員自身が主体的に研修を受けられる環境を整えていき、保育の質の向上に努めていきたい。

今年度後半の不適切保育の問題は職員自身が自ら言動を振り返るきっかけになった。その中で、気持ちに余裕をもつことがより良い保育に繋がる、という声があがった。

来年度は、今一度、現在の当園の教育保育、職員の働き方について考えていきたい。子どもの主体性を育むために、不適切な保育をしないためには、どんな教育保育が当園でできるのか、教育保育の質は下げずに業務を縮小できる部分はないか。その一環として、保育のICT活用をすすめていく予定である。

全職員が、子どもも保護者も、そして職員も笑顔でいられる和合こども園を目指し努めていきたい。